98. 歴史都市アレッポにおける 1973 年の旧市街空間整備計画
Urban spatial project of the old city of Aleppo in 1973

松原 康介*
Kosuke Matsubara

In this research, I clarify the planning idea, planning technique and methodology of the urban project plan for the old city of Aleppo in 1973 by the Japanese planner G.Banshoya. In Chapter 2, I will clarify the historical background of this program, including the participation of Banshoya, based on the past research. In Chapter 3, we will annotate the contents of all the texts and illustrations of the magazine article "Aleppo Old Town Space Development Project" which is the primary material of this program, and clarify its features. In Chapter 4, I discuss the relation between "evolutionary planning" which is one of the features found in the annotation and the previous planning theory of Banshoya. In Chapter 5, we clarify the validity of this plan mainly through comparing the plan with the old city map at the time.

Keywords **:** Gyoji Banshoya, Modernism, War damage reconstruction, International cooperation, old map, Syria
番匠谷堯二、近代主義、戦災復興、国際協力、古地図、シリア

1. 研究の背景と目的、方法

1-1. 研究の背景

数千年の歴史を誇るシリア第二の都市アレッポは、アレッポ城を中心にヘレニズム時代のグリッド型街路とイスラーム時代の稠密な街路網が複合して形成された旧市街を擁する。20 世紀に入るとフランス委任統治期に植民都市計画が導入され、旧市街においてもオスマニザシオンと呼ばれる開削型の道路建設と再開発が実施されてきた。中でも UNDP（国連開発計画）の専門家として派遣された日本人計画家・番匠谷堯二が中心となって策定された 1973 年の「アレッポ旧市街空間整備計画」（以下、「本計画」と略記）は、オスマニザシオンの系譜に連なりながらも、自動車中心の近代都市計画から歩行者中心の歴史保全への時代的変化を反映した都市計画と位置付けられている(1)。

2011 年以降の内戦で被害甚大のアレッポでは、戦後復興に際して日本を含む都市計画分野の国際協力が期待されている。そこで重要なことは、安易な開発論に流されることなく、保全を基本とした計画論を構想することであり、続いて国際協力の実績や失敗も含めたこれまでの経緯をシリアと協力国とで共有することであろう。そうした背景において、本計画は、番匠谷らによる保全と近代化のバランス取りを企図した計画論の事例と位置づけられる。

1-2. 研究の目的

そこで本研究では、本計画の計画思想と計画技術、方法論を一次資料から明らかにした上で、計画図と古地図との比較により妥当性を検証し、その計画論的特徴を明らかにすることを目的とする。妥当性の検証とは、保全と近代化のバランスを目指した計画思想が、計画図にいかに反映され、旧市街の空間をどう変容させることで計画思想を実現しようとしていたかを批判的に明らかにすることである。

1-3. 研究の方法と章構成

研究方法上の問題として資料の制約がある。実際に批判が多く、早期に中断された経緯のある本計画(2)は、既往研究において主題的に分析されたことはなかった。計画の原本もフランス等の第三国で保管された形跡はないまま、今日の内戦によって入手はほぼ不可能となっている。手がかりの一つは、フランスの雑誌 *L'Architecture d'Aujourd'hui*（現代建築）誌において、番匠谷と地理学者ジャン＝クロード・ダヴィッドが連名で本計画について解説した雑誌記事「アレッポ旧市街空間整備計画」(3)である。テキストは短いものの包括的で、ダイアグラムや計画図によって補足されており、一定の計画論的分析に耐えうる。また同時期のマスタープラン(4)や関連資料等(5)との内容的な関連も見られる。本研究ではこの雑誌記事を主たる分析対象とする。

また、本計画を巡っては、国内の政治闘争が都市計画にも影響し、社会運動阻止のために開削型・再開発型の計画が導入されたのだとダヴィッドが示唆している(6)。実際、19 世紀のパリ改造の目的の一つは、革命と体制変更の渦中で治安維持の見地からバリケードを作らせない事であった(7)。この点では、1982 年に南の歴史都市ハマーの旧市街が 1/3 に渡って破壊される事件(8)があり、アレッポでも 1980 年に軍との衝突とスーク（市場）の閉鎖事件があった。シリア、ひいては中東地域に特有の政治動態との関連は、本稿では扱わない。しかし、今日の内戦を彷彿とさせるこうした歴史的背景があるからこそ、専ら都市計画的視点に立った分析が、シリアの都市計画史の全貌を解明するための基礎作業として意味を持つのではないかと考えられる。

2 章では、本計画の歴史的経緯を既往研究も踏まえて明らかにする。3 章では、「アレッポ旧市街空間整備計画」の全テキスト・図版を対象に注釈を行い計画的特徴を明らかにする。4 章では、特徴の一つである「進化型計画論」の、番匠谷のそれまでの計画論との関連を議論する。5 章では、計画図と当時の旧市街地図との比較を通じて、本計画の妥当性を明らかにする。本研究は文献研究であるが、分析では内戦前の 2006-07 年及び 2009 年-11 年にかけて実施された観察・インタビュー等の現地調査(9)を踏まえている。

*正会員　筑波大学システム情報系社会工学域都市計画分野・国際総合学類国際開発学主専攻
University of Tsukuba, Graduate School of Systems and Information Engineering, Urban Planning Studies

2. 1973 年計画の策定経緯

番匠谷が UNDP の専門家となったのは、1967 年からであった[18]。本計画の業務は、UNDP との仏語による二度目の契約書（1969 年頃）[10]に確認できる。1967 年 8 月よりダマスカスの都市基本計画の策定業務を行い市による承認にこぎつけた番匠谷の 3 ヵ年のミッションを、更に 3 年間、1970 年から 72 年まで延長更新することが決められている。同契約書によれば、3 年間の業務は、a)アレッポの都市基本計画の予備調査を始めること、b)ダマスカス大学及びアレッポ大学における教育連携、c)住宅建設センターの設立、d)都市・地域計画センターの設立準備、の 4 つであり、更に a)には、中心市街地における「緊急整備(l'aménagement urgent)」研究が含まれており、本計画に直接関連している。

1967 年、ダマスカスにおいて、番匠谷は若手のフランス人地理研究者、ジャン＝クロード・ダヴィッド（1943-）と出会っている。ダヴィッドは翌 68 年から 72 年にかけてアレッポ市役所に研修員として滞在し、地理学者として番匠谷とともに都市計画調査を行い本計画の共著者ともなった。ダヴィッドはその後もアレッポの研究を進め、ユネスコの世界遺産登録調査[4]に参画した後、今日までに多くの学術書を上梓することになる。

アレッポでは、1931 年にルネ・ダンジェが最初の近代都市計画を導入し、そこで開削型道路計画を提案している。1954 年には、アンドレ・ギュトンがより明確な街路線計画を明示して更新し、以後多くの、オスマニザシオンと定義可能な開削型道路計画が実現されていった。なおギュトンの計画はその破壊的性格が最も強く批判されてきたが、ギュトン自身は計画書で「全てはアレッポ市の要請に基づき計画したものだ」という意味の記述を残している[10]。

本計画もまた、ギュトンの計画を無批判的に継承したものであると批判的指摘を受けてきた[11]。確かに計画図を見る限りでは、旧市街内に複数の道路が履歴抜きに示されているため、そのどれが本計画によって直接的に計画されたものなのか、一見では判別できない。しかし、図 1 に示すように、本計画には発表時点における状況を示す付図「現況図」が付属しており、その時点では殆どの開削道路は既に実現していたことがわかる。後述のように、本計画ではいくつかの既存の開削道路の延長が計画されることになるが、それ以外は本計画に帰すべき計画道路ではない。

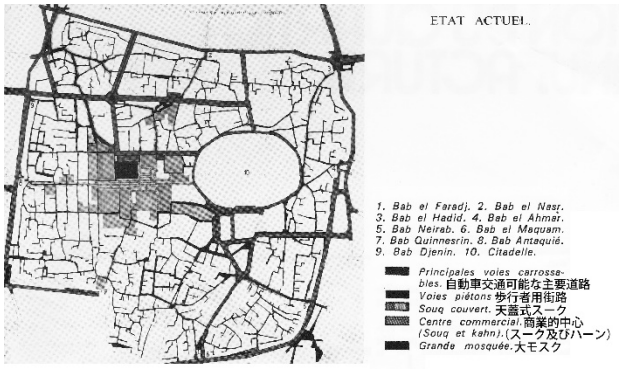

図 1：本計画付図「現況(Etat Actuel)」※道路は本計画発表時点で全て実現済み

3. 「アレッポ旧市街空間整備計画」注釈

3-1. 序論

本章で邦訳テキストを原文の順に掲げ内容の注釈を行う。

"Projet d'aménagement de la vieille ville d'Alep"
「アレッポ旧市街空間整備計画」
G. BANSHOYA, architecte-urbaniste, J.C. DAVID, géographe et l'Equipe du Bureau Technique de la Municipalité d'ALEP
番匠谷堯二（建築・都市計画家）J.C.ダヴィッド（地理学者/アレッポ市技術部員）

Alep, seconde ville de Syrie, peuplée actuellement de 660 000 habitants, était à la
シリア第二の都市アレッポは、現在 66 万人の人口を有するが、18 世紀
fin du XVIIIe siècle l'un des trois centres de commerce du Moyen-Orient et l'une
の終わりには中東地域における 3 つの商業センターの一つであり、最も
des plus grandes villes. Elle comptait alors environ 200 000 habitants et s'étendait
大きな都市の一つであった。かつての人口は 20 万人、市街地面積は
sur 390 hectares. La zone à aménager ne comprend que la partie intra-muros de la
390 ヘクタールであった。整備されるゾーンは、大モスクを中心とする主
vieille ville (180 hectares) qui englobe les principaux quartiers et monuments
要街区と記念的建築、スーク及びアレッポ城を統合している、旧市街
historiques, centrés sur la grande mosquée, les souks et la citadelle. Le plan
（180 ヘクタール）の城壁内部に限られる。この提案計画は、現状に基づ
proposé est réalisé en fonction de quartiers homogènes déterminés d'après l'état
き区分された、有機的まとまりを持つ各地区に対応して策定された。すな
actuel : quartiers historiques (48 ha), quartiers anciens sans caractère historique
わち、歴史的地区（48ha）、歴史的特徴のみられない古い地区（77ha）、お
(77 ha), quartiers dégradés ou insalubres (27ha).
よび崩壊した非衛生地区（27ha）である。

ここでは、旧市街を大きく 3 種の「地区」に分けて考えることが示されている。一般に原語 quartier は「地区」または「街区」のいずれにも訳され、後者は「（近隣）住区」や「界隈」という訳語が当てられることも多く、特にイスラーム世界の都市空間については、夜間に閉じられる門により境界づけられた、より小規模で生活スケールのエリアを意味する[12]。ここでは、48 ヘクタールという規模の大きさからみても、「地区」と訳されるのが適切であろう。その上で着目すべきは、何をもって「歴史的」「歴史的特徴のない古い地区」「崩壊した非衛生」と定義しているかであろう。

3-2. 各地区の特徴と計画方針

1.Les quartiers historiques 1.歴史的地区

Les 150 monuments historiques sont presque tous concentrés sur les axes principaux
150 ある記念碑的建造物のほぼ全てが、城門からアレッポ城と大モス
de la vieille ville, ceux qui, des portes, pénètrent jusqu'à la citadelle et à la grande mosquée.
クへと接続する旧市街の主要通りに集中している。これらの記念碑的
Ces groupes de monuments, avec leur environnement de maisons populaires et bourgeoises,
建造物のグループは、庶民及び富裕層の住宅、店舗、そしてそれらを結
de boutiques, et les rues qui les traversent, sont proposés comme quartiers historiques.
ぶ細街路とあわせて、歴史的地区と定義される。

Dans cette zone, seuls les monuments classés ou proposés au classement, sont
このゾーンにおいては、指定建築物および提案指定建築物だけが 絶
l'objet d'une protection absolue. Les autres bâtiments peuvent être modifiés, suivant
対的な保護の対象となっている。他の建築物は、市が提案するプロジェク
les projets proposés par la municipalité ou en respectant certains impératifs :
トによるか、または以下の規則に基づく範囲で変更可能である。すなわ
conservation ou restitution de l'aspect extérieur, maintien de la structure à patio,
ち、外観の保全あるいは復元、中庭形式の継承、住宅については地階＋
nombre d'étages limité à un au-dessus du rez-de-chaussée pour les habitations.
一階までの階数制限、が規定されている。整備対象となる旧市街を境界
Le mur d'enceinte qui limite la partie de la vieille ville à aménager, sera dégagé partout
づけている城壁のうち、損傷した城壁遺構は、西側および南側の 1200
où les vestiges sont suffisants, soit sur près de 1200 m sur les fronts ouest et sud.
メートル近くに渡る箇所が全体的に取り壊される。

Notre objectif principal reste le maintien de la vie dans le vieux centre qui
われわれの主要な目的はほぼ全ての伝統的活動と機能を含む歴史的
englobe la quasi-totalité des activités et fonctions traditionnelles. Les monuments
中心市街地の生活を維持することにある。修復された記念碑的建造物に
historiques restaurés devront conserver leur fonction traditionnelle ;
おいては、その歴史的機能が継承されていなければならない。もしこの

si cette fonction est tombée en désuétude, ils recevront une nouvelle affectation
（**続き**）機能がすたれている場合は、これの記念碑的建造物はその建築的
suivant leur structure (musée, salles d'exposition, atelier d'artisanat, hôtels,
構造に応じて、新しい役割（博物館、展示場、工芸館、ホテル、観光目的の
aménagements divers à but touristique, etc.).
ための様々な整備など）を受け入れることになろう。

歴史的地区の定義がここで示されている。旧市街の主要通りに面する記念碑的建造物が構成要素とされ、接続する住宅と店舗も含まれる。指定建築物及び提案指定建築物とは、アレッポにおいては大モスク(13)を代表とする、外観的にも機能的・構造的にも重要で変更不可能なモスク、マドラサ（神学校）、廟等の宗教施設、及び重要性の高いハーン（隊商宿）(14)、工房等の諸施設である。絶対的な保護対象とされ物理的改変の余地はないが、転用の可能性はある。景観的・建築的規制が設定された他の建築物とは、小規模なハーン及び店舗、住宅を意味する。計画の目的は旧市街の歴史的生活、すなわち礼拝と商業活動を維持することとされる。

2.Les quartiers anciens　2.古い地区
Ces quartiers, qui forment la masse de l'habitat ancien de la vieille ville intra-muros,
城壁内旧市街の古い住宅地の大部分を構成するこの地区は、97 ヘク
77 hectares sur un total de 97 hectares de quartiers d'habitation étaient et sont encore
タールある 住宅地のうち 77 ヘクタールを占め、現在でも小富豪及び庶
l'habitat petit bourgeois et populaire. Ayant conservé leur fonction et leur population
民の住宅地である。機能及び元からの住民を保持しており、その環境は
d'origine, ils sont peu dégradés et peu modifiés. Pour ces quartiers, où démolition et
悪くなっても変容してもいない。これらの地区においては建物の除去・再
reconstruction sont autorisés, nous avons seulement imposé une limitation du
開発が許可されており、われわれは階数制限（二階建てまで）だけを設定
nombre d'étages (un étage au-dessus du rez-de-chaussée) ; si la parcelle a plus de 80
した。ただし敷地が 80 ㎡以上ある場合、建物は中庭形式で建設されね
mètres carrés de superficie, le bâtiment devra être construit suivant la structure à
ばならない。また、通りに面するファサードは大きな石材で構築しなけれ
patio ; les façades sur la rue devront être élevées en pierre de taille, sans balcons ni avancées.
ばならず、バルコニーの設置や突出（軒や張り出し等）は認められない。

古い地区は記念碑的建造物が存在せず殆ど住宅から構成されているが、実際には小さなモスクやハーン、キリスト教会、店舗、工房等が存在し、それ自体生活のための空間といえる。建物の除去・再開発（再建築）が可能であることが確認されており、二階建て、中庭式、ファサードの景観的制限を遵守すれば、一定の開発が許可される。

3.Les quartiers dégradés ou insalubres 3.非衛生地区
Les quartiers devenus insalubres sans avoir été touchés par des opérations d'urbanisme
これまで都市計画的事業の対象とならず、非衛生となった地区は、全体的
antérieurs seront totalement remodelés. Certains quartiers déjà entamés par des plans
に再構築される。これまでの街路線計画あるいは空間整備計画が既に着手
d'alignement ou d'aménagement antérieur, seront corrigés et complétés.
されたいくつかの街区は、修正され事業として完遂される。
Les plans d'alignement conduisent à la construction d'habitations à étages alignées
街路線計画は、拡幅された街路に沿って中層住宅を建設するよう導くもの
sur une rue élargie. Derrière le mur d'immeubles neufs subsiste un lambeau de quartier
である。新しい高層住宅の壁の背後には、4本の通りに挟まれ4方を新しい
ancien qui, s'il est pris dans un réseau de quatre rues peut être isolé des quatre côtés par
建物によって囲まれた、古い地区の切れ端が生き残ることになる。その結
le mur d'immeubles neufs : l'équilibre traditionnel est détruit, la circulation de l'air et de la
果、伝統的な空間の調和は崩れ、通風と採光は妨げられ、美観は喪われ、
lumière entravée, l'aspect esthétique dégradé, l'intimité de la vie familiale dans les patios
そして中庭における家族の生活は高層住宅の窓から見下ろされる視線に侵
violée par la vue plongeante des fenêtres des immeubles. La cohabitation des deux types
害されてしまう。この二つの建築タイプの共存は不可能である。 既に開始さ
d'architecture est impossible. Il est nécessaire de compléter les groupes d'immeubles déjà existants
れた高層住宅群を完成させ、また屋根つき空間、街路、公園を形成すること
et d'établir des espaces couverts, rue, jardins, pour les séparer de la structure traditionnelle.
で、これらの高層建築を伝統的構造から切り離すことが不可欠なのである。

非衛生地区（直訳は「倒壊した、または非衛生な地区」）は、1931 年のダンジェ計画においても存在と対策の必要性が指摘されており、70 年代においても存在したものと考えられる。ダンジェ及びギュトンによる「これまでの街路線計画及び空間整備計画」は徐々に実現されてきており、ここで完遂されるべきとされる。その方法は、沿道にフランス式中層アパルトマンの建設が予め織り込まれた、いわゆる超過収用が想定されている。しかし超過収用の結果 4 辺を開削道路と沿道アパルトマンに囲まれる形となった「古い地区」の都市組織が残るブロックでは、中庭がアパルトマンから覗き込まれるという、イスラーム世界で最も忌避されるプライヴァシーの侵害が起きてしまう。二つの建築タイプ、アパルトマンと中庭式住宅の共存は不可能であるとされ、ブロック内は高層住宅と近代施設で刷新されるべきとされている。イスラーム世界の都市空間に関する見識は、ここでは近代開発を不可避と論じるために用いられているのである。

3-3. 交通計画の思想と技術

Une ouverture sur le reste de la ville　都市のその他の箇所の開削
Nous avons étudié un nouveau réseau de circulation qui respecte les impératifs esthétiques
我々は、古い地区の保全という美学的で不可欠な至上命題を尊重する新
et vitaux de la conservation des quartiers anciens et fournit aux centres traditionnels
たな交通網を研究した。そして対象地区の歴史的中心だけでなく新しく計画
aussi bien qu'aux nouveaux centres de quartiers projetés, un accès automobile limité.
された地区拠点に、制限付きの自動車交通を導入した。
Le plan actuel et la structure des quartiers, répartis autour d'un axe central (Souq
現況市街地及び地区組織は、中心軸（スークからアレッポ城へ）周辺に
Mdiné-Citadelle) et cernés par la rue circulaire établie sur les anciens fossés
形成されており、古い濠の上に作られた外周道路（ハーンダク通り）に囲ま
(Khandak), permet un aménagement facile des accès.
れているため、 アクセス街路の整備を容易化する。
Les quartiers historiques à préserver sont au centre de cette structure ; les quartiers
保全されるべき歴史的地区はこの構造の中心に位置し、整備すべき崩壊
dégradés à aménager ou sans valeur historique sont à l'extérieur, ils peuvent être
した地区や歴史的価値のない地区はその外側に位置している。これらの地
traversés par une série de voies rayonnantes, concentriques, en cul-de-sac, joignant
区においては、既存又は新設の外周道路と歴史的・商業的地区の周囲に点
les rues périphériques existantes ou projetés, à des centres locaux répartis autour du
在する地区拠点を接続する、一連の同心円的で放射状の袋小路型街路を
quartier historique et commercial, sans le pénétrer.
通すことが可能である。これらの街路は歴史的地区を貫通することはない。
On évite ainsi de découper la vieille ville en damier, par des percées transversales qui
我々はこうして、生きている都市組織をバラバラにし死に至らしめるかもし
en fractionneraient la structure vitale et la rendraient non viable.
れない横断街路によって旧市街を格子状に切断することを避けたのである。
Tout point de la vieille ville est alors à moins de 200m d'un accès automobile. On
結果として旧市街内の全ての場所が、自動車による乗降場所から 200m 以
conserve, pour la circulation des piétons, les axes traditionnels qui, à partir des
内に位置することになる。歩行者交通のために、古い城門からアレッポ城や
anciennes portes de l'enceinte, mènent soit à la citadelle, soit au Souq Mdiné. Ainsi,
スーク・ムディーネに接続している伝統的な主要通りを保全する。 このよう
deux réseaux de circulation conduisent des rues périphériques au centre de la
に、二本の通りが外環道路（？）から都市の中心へと結んでいる。一つは車
structure : un réseau carossable et un réseau pour piétons.
道であり一つは歩行者用街路である。
A l'intérieur de la masse de la vieille ville le passage d'un axe à l'autre se fait par les ruelles
旧市街の大部分の内側においては、主要通りから主要通りへの歩行者の
existantes pour piétons. Les nouvelles rues carossables conduisent à des parcs de stationnement
移動は既存の細街路によってなされる。自動車交通可能な新道路は、地区
en cul-de-sac, qui desservent des centres de quartier. Dans la structure urbaine traditionnelle,
の中心に通じる袋小路型駐車場に至る。かつて伝統的な都市構造において
le Hammam, la fontaine publique, la mosquée, le souq, avaient en plus de leur fonction
は、ハンマム、公共の水場、モスク、スークは、特定の機能に加えて、交流の
spécifique, un rôle de lieu de rencontre. Actuellement, le souq et la mosquée restent seuls
場所としての役割をもっていた。今日、スークとモスクだけが本来の役割で
en fonction mais ne suffisent pas à satisfaire ce besoin social. Les nouveaux centres de quartier
機能しているものの、（交流の場としての）社会的な要求に答えるには十分

doivent prendre au moins partiellement la relève. Suivant les besoins déterminés grâce à
（**続き**）でない。新たな地区拠点では、少なくとも部分的にはこれを補う。既
l'inventaire des équipements existants et à l'estimation de la population future optimale,
存施設のリストと将来人口の最適予測にもとづき決定された需要にしたがっ
ces centres peuvent comprendre de petits espaces verts, un centre scolaire, un petit
て、これらの中心は小さな緑地、学校、小さな商業センター、診療所、そのほ
centre commercial, un dispensaire et tout autre équipement collectif nécessaire.
か全ての必要な施設を導入することができる。
Actuellement, tout permis de construire dans la vieille ville est donné en fonction du
現在、旧市街内における全ての建設許可は、提案されたゾーニングに応
zonage proposé, 48 hectares de quartier historique (partiellement), 27 hectares
じて出されており、48 ヘクタールが歴史的地区（ただし部分的に）、再開発
réservés pour rénovation, 17 hectares réservés pour nouvelles rues, 11 hectares
のための 27 ヘクタール、新しい道路のために 17 ヘクタール、新しい緑地の
réservés pour nouveaux espaces verts. La construction est autorisée seulement sur les
ために 11 ヘクタールが設定されている。建設は住宅地区である地区の 77
77 hectares de quartier d'habitation ordinaire.
ヘクタールにおいてのみ許可されている。

続いて旧市街内交通の計画論が論じられる。冒頭では歴史的地区のみならず古い地区の保全が至上命題(impératifs)であるとされ、歴史的地区と古い地区を区分することで、道路を旧市街に導入することが可能と説明されている。

ここで「空間構成の方針」(図 2)を見ると、歴史的地区と古い地区、自動車交通路と歩行者用街路の関係がダイアグラムで示されている。旧市街全体は外周道路に囲まれ、「歴史的商業的中心」と外側の「住宅地区」から成る。旧市街の外から外周道路を越えて旧市街に入る「自動車用新道路」は幅員が狭く、「歴史的商業的中心」の手前で袋小路型の駐車場となる。一方、「伝統的歩行者街路」は旧市街の外から「歴史的商業的中心」の内部まで至り、「住宅地区」を循環しており、本来の旧市街の街路網を指している。つまり「新道路」は「住宅地区」を貫通するが「歴史的商業的中心」には入り込まないことで、保全の命題に答えるという思想である。

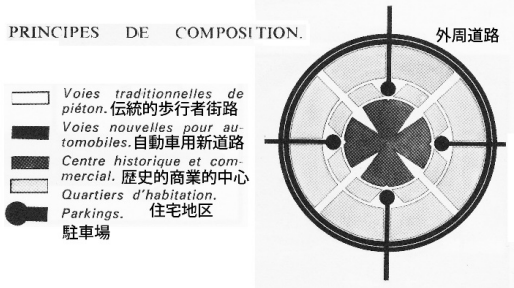

図 2:「空間構成の方針(Principes)」

また、「生きている都市組織をバラバラにし死に至らしめるかもしれない横断街路」とは、その内容から、ギュトンによるスークを切断する開削道路計画であると考えられる。実際、本計画からは削除されている（後述）。すなわち、従前の計画よりも保全重視型であると主張されている。

一方、そもそも道路を導入する理由としては、「歴史的中心だけでなく新しく計画された地区拠点に」とあり、新旧の中心へのアクセス改善があったといえる。旧市街の全ての場所から乗降場所まで 200m 以内に収まるという記述も同趣旨である。新しい中心が必要な理由は、ラクダによる隊商交易が廃れるにつれて時代遅れとなったハーン等の施設からなる歴史的中心に替わる、「交流の場」の社会的必要性が高まっているためされている。「交流の場」は公園や学校、商業等からなる典型的な近代センターが想定されており、その実現には一定規模の再開発が想定されていた。

最後に、面積データの確認と図版を含み曖昧だった地名・地区名の整理が行われる。冒頭では、旧市街 180 ヘクタールの内訳は、歴史的地区 48 ヘクタール、古い地区 77 ヘクタール、非衛生地区 27 ヘクタールとされ、残り 28 ヘクタールは用途不明であった。これと照応すると、再開発（rénovation）のための 27 ヘクタールとは「非衛生地区」の言い換えであることがわかる。また、道路用地 17 ヘクタールと緑地用地 11 ヘクタールの合計が用途不明であった 28 ヘクタールと一致する。そして建設可能な「住宅地区」77 ヘクタールが「古い地区」を指すことが明確となる。

ここで「プロジェクト」(図 3)を見ると、ダイアグラム的であった「空間構成の方針」が、よりアレッポの空間構成に近い形で適用されている。アレッポ城（9.Citadelle）を中心に、西側に「歴史的商業的中心」が広がっており、外周道路から延びた複数本の「新道路」がその手前で袋小路型駐車場となっている。これにより「歴史的商業的中心」に侵入することなくアクセスする道路計画の理念が示されている。

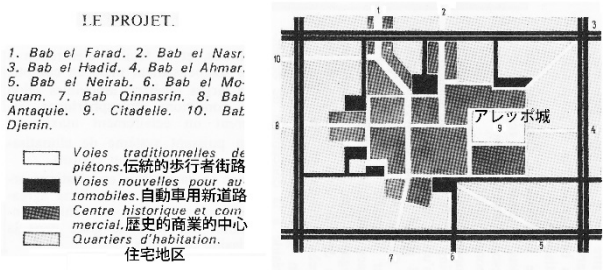

図 3:「プロジェクト（Le Projet）」

3-4. 結論部と計画図

Conclusions 結論
Parce qu'il ne peut y avoir de passage évolutif de la structure traditionnelle à une structure
歴史的構造から近代的構造への進化型の移行が、両者が相互に異なる
moderne, dans la mesure où ces deux structures, parfaitement étrangères l'une à l'autre sont totale-
原理に基づいており、しかも両立しえず、不可能であるため、また、軽率な
ment inconciliables, parce que les quartiers de la vieille ville victimes de percées modernes incon-
近代道路の犠牲となった旧市街の地区も決して修復しえないものであるた
sidérées ont ainsi définitivement irrécupérables, une réaction énergique et immédiate s'imposait.
め、強力かつ迅速な対応が導入された。
Si nous avons donc été conduits à proposer ce plan d'aménagement, c'est beaucoup moins
かくして、この空間整備計画の提案に至ったのは、考古学的・観光的・未
à partir de préoccupations archéologiques, touristiques ou sociales futures, qu'en fonction de
来社会的な関心からではなく、旧市街を多かれ少なかれ無秩序な仕方で自
l'impossibilité qu'il y avait de laisser plus longtemps la vieille ville évoluer plus ou moins
然発生的に発展するに任せてきた不可能性に対応したからであり、ごく近い
spontanément de façon anarchique sans que, dans un très proche avenir, les dégâts ne
将来において、問題が取り返しのつかないことにならないようにするためで
deviennent irréversibles.
あった。

結論として、再開発は非衛生地区等の都市問題の対応のために不可欠とされており、UNDP との契約にあった「緊急整備」の具体的課題と考えられる。しかし、ここでは歴史的構造から近代的構造への進化型の移行（Passage Evolutif）は不可能とされている点が重要である。「進化型」というキーワードは、主計画者である番匠谷が、最初の作品である「正方形の家」（1953）において採用し、キャンディリスが

共鳴し、アルジェやプノンペンでも実践していた、柔軟な計画論の根幹となる思想「近代主義的なものの地域的固有性への応用」に関連するからである[13]。旧市街と近代市街地が共存しえないとされる根拠の一つは、非衛生地区の項で指摘されたプライヴァシーの問題である。また、開削された旧市街地の修復は不可能であるともされており、保全と近代化のバランス取りは、ここで臨界を迎えている。

ここで付図「計画図（商業及び行政サービス）」（図 4）を参照すると、まず、前掲の現況図（図 1）との比較から、本計画で新規に計画された旧市街内の道路 2 本、及び外周道路それぞれの延長箇所が確認できる。それ以外に目立った貫通型の道路計画は見られない。ギュトンの計画に見られたスークを縦断する道路は削除されている。また、現況図では旧市街内の道路は無秩序に入り込んでいたが、計画図では自動車交通可能な道路は限定されている。

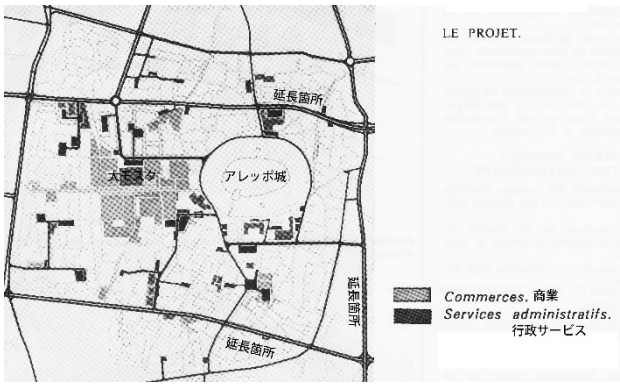

図 4：付図「計画図（Projet）（商業及び行政サービス）」

「計画図（地区別計画）」（図 5）では、「歴史的地区」（ダイアグラム中の「歴史的商業的中心」）と「再開発地区」（「非衛生地区」の言い換え）が明示されている。また、そのいずれでもない白色部分が「古い地区」（ダイアグラム中の「住宅地区」）であるといえ、3 地区が明示されている。自動車交通としては、ダイアグラムを踏襲し、「新道路」が「歴史的地区」手前の袋小路型駐車場までアクセスしている。また、外周道路の延長と連動して旧市街内の既存道路を細くし、歩行者用街路を並走して配する歩車分離がなされている。

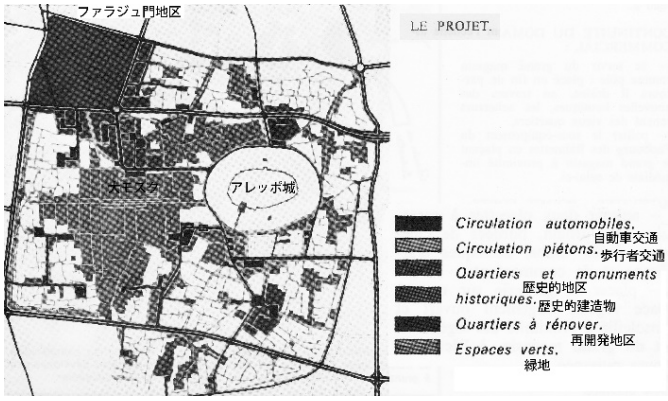

図 5：付図「計画図（Projet）（地区別計画）」

このように本計画は、3 地区の設定とこれに連動した交通計画により、従前の都市計画に比べてより保全をアピールした内容となった[15]。アレッポ旧市街でこうしたゾーニングを設定したのは本計画が初めてである。しかし、「歴史的地区」では強力な保全が期待される半面、その外側ではむしろ容易に開発を許してしまう懸念も生じる。テキスト中にあった「4 本の通りに挟まれ 4 方を新しい建物によって囲まれた、古い地区の切れ端」とは、具体的には「再開発地区」に指定されたファラジュ門地区であることがここでわかる。計画の妥当性に関するより詳細な検証が不可欠といえよう。

4. 進化型計画論の特徴とその喪失

4-1. 進化型計画論としての特徴

前章でみたように、本計画の結論部には、進化型計画論の挫折と読み取れる記述が見出された。番匠谷堯二の計画論は、ここアレッポにおいてついに潰えたのだろうか？

ここでこの時期の番匠谷の思想を確認してみると、1971 年に雑誌『新建築』でこう書いている。「（アルジェ市都市計画等の）仕事をふまえて近年、私はアラビア諸国の都市計画に携わっているのですが、都市計画に関する場合、低開発国という言葉は通用しません。なぜなら都市計画は人間相手の仕事であり、国・都市・人種によってそれぞれ相違するからです。都市計画はその国情をよく理解し、その都市特有の計画をひとつひとつ提案して行かなくてはなりません」[18]。これはそれぞれの都市や地域の固有性の重視である。また、1977 年の『建築雑誌』では、ヘレニズムからイスラーム、フランス統治期までの各時代に固有な空間が重層化してきた歴史の重要性を論じている[19]。いずれも一連の「進化型計画論」[16]の継続と見ることが出来る。そこで本計画の付図に戻ってみると、「空間構成の方針」は近代主義的なモデルを提示したものであり、いわば究極の理念型である。計画プロセスにおいて、「方針」から「プロジェクト」、更に「計画図」へと段階を踏んでいるのは、普遍的なモデルをアレッポという都市の固有性に段階的に適応させていくという形での、進化型計画論の標榜に他ならない。

結論部における「進化型の移行（Passage Evolutif）」は、まさに進化型計画論の特徴といえる。本計画は、最後まで、一貫性のある計画論によって策定されようとしていたのである。そして、それにも関わらず、それは「不可能であった」と書かれていることは確かなように考えられる。

4-2. 特徴の喪失

ただし、それまで地区分類から、これを踏まえた交通計画論へと、保全と近代化の両立を目指して展開されてきた精緻な議論が、最後に唐突に投げ出されている印象を与えることも否めない。開削道路については、パリのような超過収用と中層アパルトマンの建設は必須ではない。超過収用は沿道の地価を高めることで事業費を賄うオスマニザシオンの技術であるが、それは行わずに道路開削のみ実施し沿道は最小限の修復に留めるという発想はなかったのだろうか。特に、ファラジュ門地区の規模は大きく、地区を囲む 4 本の道路の超過収用のレベルを超えて全面的再開発とするには、プライヴァシー保護の目的だけでは説明はつき難い。

このように検討していくと、やはり、ファラジュ門地区の全面再開発には、純粋な都市計画的理由だけでは収まらない別の事情があったのかもしれない。例えば、ギュトンが示唆したように、今回もアレッポ住民自身が開発を望んだ可能性はある。ダヴィッドの指摘のように、社会運動対策も一つの可能性である。また、同地区は歴史的に差別の対象であったユダヤ人地区であった[17]。これらの諸点から、スクラップの対象とされても不思議ではなかったかもしれない。

仮にそのような事情があったとすれば、もはや番匠谷やダヴィッド等の外国人都市計画家の計画思想などは、殆ど説得力を持たなかったであろう。「アレッポ旧市街空間整備計画」からは、そうした計画家らの苦衷が示唆されるように筆者には思われる。とはいえ本稿では、再び計画図に戻り、計画論研究として考察を終えることにしたい。

5. 古地図との比較による計画の妥当性の検証

5-1. 計画フレーム

まず本計画の対象エリアを見ると、アレッポの歴史的市街地の中でも、城壁に囲まれた「旧市街」のみを対象としている（図6）。城壁建設後に城壁外に形成された歴史的市街地「古い郊外地」と、19世紀以降、オスマン帝国期からフランス委任統治期にかけて形成された「新市街」は、計画対象から除外されている。「古い郊外地」や「新市街」には、キリスト教徒地区として知られるジュデイダ地区、アジジーエ地区、バーナクーサ地区等が含まれている。

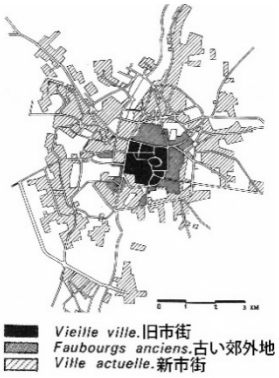

図6:旧市街の位置づけ

5-2. 各地区における保全/再開発状況

続いて、本計画の前提となっている、「歴史的地区」、「古い地区」、「再開発地区」の区分の妥当性を検証する上で、1982年に出版されたドイツの地理学者 Gaube&Wirth の地図集[18]を比較参照する。時期的に本計画の直後に実施された調査に基づいており、街路網が示された地図に歴史的施設等770件がプロットされ、建築様式に関わる王朝期別の建設年代[19]、施設種別、基本構造が示されている。同地図上に本計画図をプロットし、図7及び図8を得た。

「歴史的地区」(48ha)は絶対的な保全の対象となる地区である。図7より、最も古い施設がスークを中心とするアレッポ城の西側に集中していることがわかる。「歴史的地区」はその大部分を包含しており、その意味で妥当性は高いといえる。番匠谷とダヴィッドは、先行研究者であるジャン・ソヴァジェやル＝トゥルノーらフランス人人類学者、考古学に造詣の深かった都市計画家ミシェル・エコシャールらの業績を参考に「歴史的地区」を設定したものと考えられる。

「古い地区」(77ha)は、「歴史的地区」から外れ、かつ、「再開発地区」に指定されていないエリアである。城壁内の全体に渡る住宅地であり、施設単体の記念碑的価値ではなく生活の場としての都市組織の空間構成に面的価値があるといえる。しかし、非衛生的とされた箇所は「再開発地区」に指定され、また新道路と袋小路型駐車場の導入がなされるので、その際に計画的判断が要請される。

「再開発地区」は新市街と接し交通の要衝であるファラジュ門地区とその周辺を初めとし、大モスクまでの道路周辺、アレッポ城周辺の行政施設エリアに指定されている。開発内容は本計画には具体的には示されていないが、注釈で示したようにスクラップ＆ビルド型が示唆されている。また、上述の『新建築』記事では中層建築主体の地区再開発模型写真が掲載されている（図9）。

5-3. 「再開発地区」における喪失と再開発の状況

「再開発地区」(28ha)内に施設は44件存在した。そのうち21件がファラジュ門地区に集中している（表1及び表2）。44件は約500件の旧市街の施設の一割近くに達する。しかし、年代別内訳は、1260年以前が1件、1260-1400年が4件、1401-1516年が3件、1517-1770年が2件、1771-1918年が17件（39%）、1918年以降が17件（39%）であり、比較的新しく、また近代農業施設や近代ビル等「その他」に分類される重要性の低い建物が占めていることも指摘できる。ファラジュ門地区にはモスクが多く存在する他、シナゴーグが2件存在する[20]。その他の再開発地区においては、「その他」が多く、既に一部沿道には工事中の新建築が確認できる。1件ある1260年以前の建物はアル＝ダッバーガ・モスクであり、中層アパルトマンの建設に伴い破壊されたが後に考古総局によってドームと礼拝室等が再建された[21]。

ファラジュ門地区が全面的な再開発の対象とされたのには、上述の通り特別な事情があった可能性が考えられるが、実際にモスクやマドラサといった重要施設、及び歴史的に古い施設が多く存在したことがわかり、その可能性が高まった。また、他の再開発地区には重要性の低い建物が多かったが、地区自体は旧市街中心部を含む交通の要衝に設定されている傾向がみられた。非衛生を理由としながらも、実際には交通計画的理由も踏まえて設定された可能性がある。

表1:ファラジュ門地区の施設

王朝期	①	②	③	④	⑤	計
1260以前						0
1260-1400	2				1	3
1401-1516	1	1				2
1517-1770				1		1
1771-1918	1	1	4		2	8
1918以降	1		2		4	7
計	5	2	6	1	7	21

表2:その他の再開発地区の施設

王朝期	①	②	③	④	⑤	計
1260以前	1					1
1260-1400					1	1
1401-1516					1	1
1517-1770				1		1
1771-1918			2	3	4	9
1918以降		1			9	10
計	1	1	2	4	15	23

表3: 街路線内に含まれる施設

王朝期	①	②	③	④	⑤	計
1260以前	1					1
1260-1400						
1401-1516						
1517-1770						
1771-1918		4	2	2		8
1918以降		1			5	6
計	1	5	2	2	5	15

表注 ①モスク・マドラサ ②ハーン
③行政 ④住宅 ⑤その他
※①→⑤の順に施設としての重要性が高い

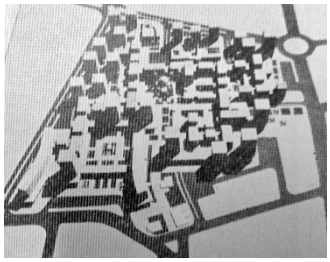
図9:ファラジュ門計画
(『新建築』1971年10月号)

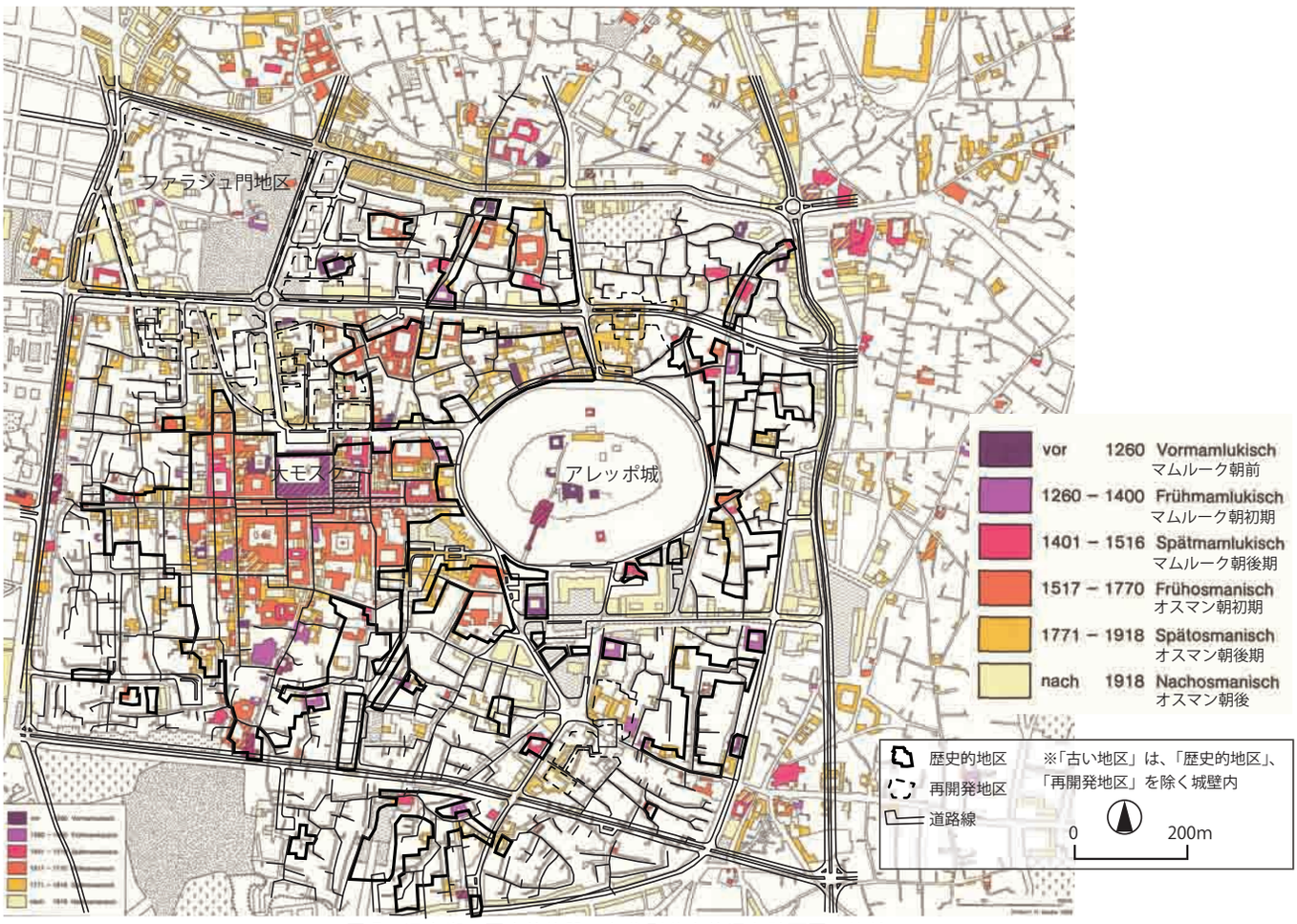

図 7：旧市街の歴史的施設の年代別分布状況と計画図の比較

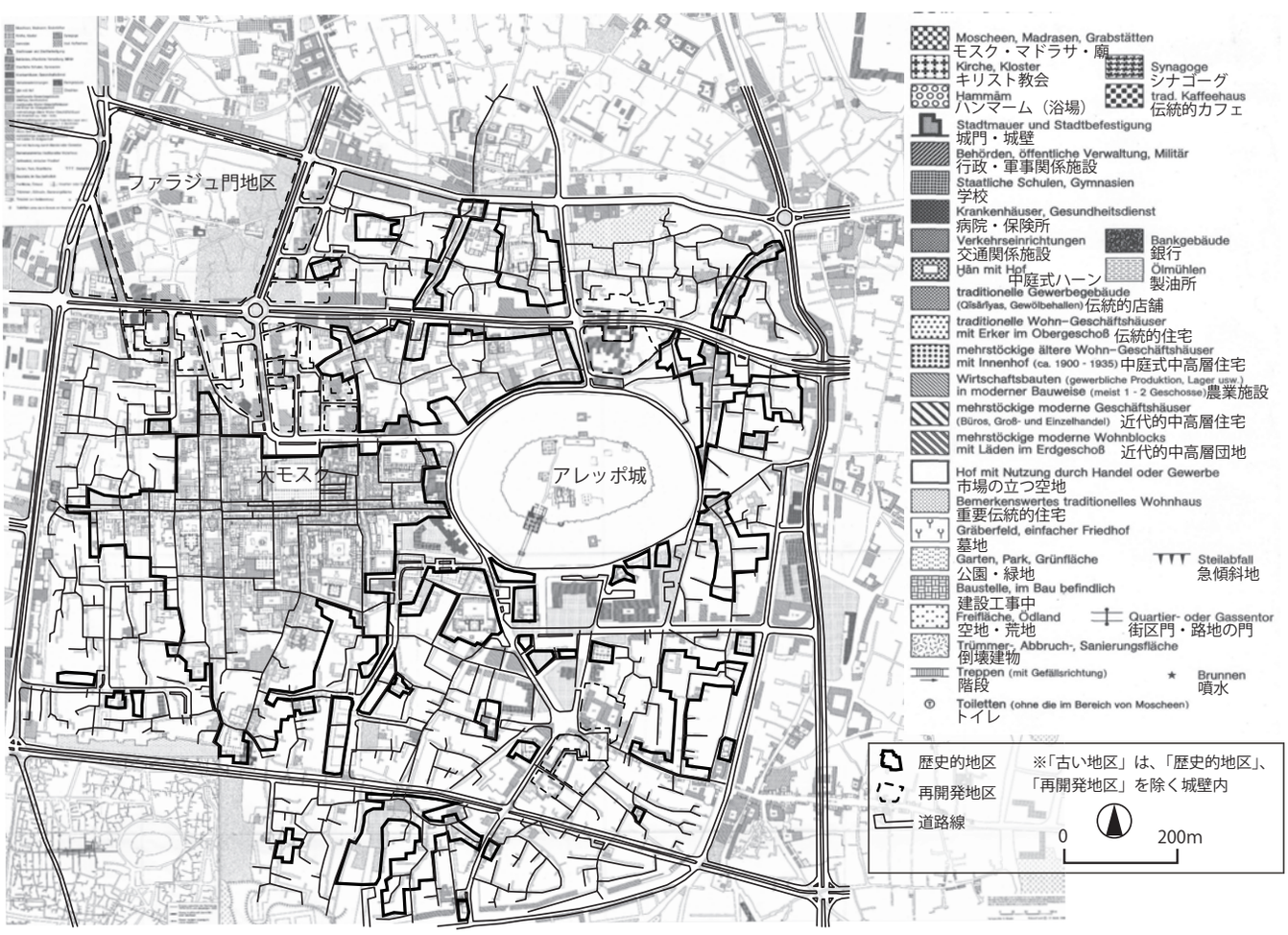

図 8：旧市街の歴史的施設の種類別分布状況と計画図の比較

5-4. 新道路及び袋小路型駐車場の導入における喪失の状況

「古い地区」における延長道路、新道路及び袋小路型駐車場(17ha)の街路線内に含まれている施設は 15 件存在した（表 3）。内訳は、1260 年以前が 1 件、1771-1918 年が 8 件（53%）、1918 年以降が 6 件（40%）であり比較的新しい建物が多い。1260 年以前の施設は 1208 年建設のムフリム・モスクとされるが詳細は定かでないと Gaube&Wirth の解説にあり、ほぼ倒壊建築であったと考えられる(22)。

一方、道路等による都市組織の分断もまた、喪失と位置付けられる必要がある。図 7 及び図 8 からは、複数の道路が古い地区の街路を拡幅し都市組織を破壊している様相が見て取れる。また、新道路の沿道が超過収用される形で「再開発地区」を導いていると考えられる箇所も見られるが、これは上述の交通計画的理由による設定と位置づけられる。

5-5. 小括

本計画の第一目標とされる旧市街の保全は、絶対的保全の「歴史的地区」によって担保されるが、実際に記念碑的建造物の多くを包含していた。一方、これと引き換えに「緊急整備」の必要性から設定される開削道路と「再開発地区」では、喪失される施設は多くはないものの都市組織の切断は複数箇所で確認された。これは、保全と近代化の両立を目指した計画論の体現としては、概ね妥当な結果と考えられる。

6. 結論

本稿では、1973 年に計画された歴史都市アレッポの旧市街空間整備計画を対象に特徴を明らかにした。計画思想としては、歴史都市としての重要性が認識されながらも、非衛生地区の「緊急整備」の必要性と、これまでの開発計画の継承の必要性も指摘され、保全と近代化のバランス取りを「進化型計画論」によって実現しようとしていた。また、計画技術としては、「歴史的地区」「古い地区」「再開発地区（非衛生地区）」の分類に基づいて、袋小路型駐車場の導入と、超過収用、スクラップ・ビルド型の再開発を提起していた。

更に、計画図と古地図との比較から、計画論に対する実際の計画の妥当性を検証した。旧市街は歴史的施設が集中するエリアと住宅中心のエリアに分かれていたが、本計画ではそれを正確に読み取り「歴史的地区」を設定していた。「再開発地区」及び「新道路」により喪失される施設単体は比較的新しく重要性も低かったが、面的な都市組織の喪失は課題として残った。1980 年にユネスコ・レポート等によって批判された本計画の評価のためには、記念碑的建造物の単体保全から生きている都市の面的な保全への発展を牽引していたユネスコの活動との関連や、揺れ動く政治的動態との関連をも踏まえた、多面的考察が必要であろう。

【謝辞】

本研究は、科研費若手A「多様性と共生の知恵を育む中東・北アフリカ地域の都市計画史」(24686067)及び挑戦的萌芽「アレッポの戦災状況調査と戦災復興都市計画原案の策定」(26570003)に基づき実施された。

【註】

(1) 文献 21 は、フランス委任統治期から番匠谷までのオスマニザシオンの系譜を扱い、道路計画が独立後ではなく、1931 年のダンジェ計画まで遡ることを指摘している。
(2) ファラジュ門地区の再開発が、住民の反対運動とユネスコの調査によって中止されることとなった経緯は、反対運動の当事者らによる文献 14 及び文献 15 がある。
(3) 文献 2。本稿ではフランス語原文と付図を全て掲載し拙訳を添える。また、見やすいよう図版のレイアウトには微細な修正を加えた。
(4) 2 年後に策定された文献 3（マスタープラン）でも旧市街内の道路は描かれている。ただし、再開発地区や新道路、袋小路型駐車場についての詳細は描かれていない。
(5) 一次資料として、UNDP の業務契約書や番匠谷の履歴書等の個人文書を、所有者の同意を得て用いる。二次資料として文献 6、11、12、17 の歴史研究書を用いる。
(6) 文献 8。本計画の共同策定者ダヴィッドが、アレッポと中央権力との地域間抗争の中で都市計画の推移を描写した試論であり、番匠谷は「日本人」とのみ描かれている。
(7) 例えば文献 20、pp.89-94。
(8) 文献 17、pp.314-337。不穏分子が旧市街に逃げ込むことが常態であった。
(9) 筆者は 2006 年 4 月から 2007 年 8 月まで日本学術振興会特別研究員としてアレッポ大学学術交流日本センターで現地調査を実施した。また、2009 年 9 月から 2012 年 1 月まで JICA 専門家としてダマスカスの都市計画調査に参加した。以後、シリア国内に入ることは難しくなったが、本研究では上記調査結果を用いる。
(10) 親族の提供による個人蔵書。
(11) 例えば文献 5, p.306 では、本計画と 1983 年の地図を対比して、1983 年の道路が全て本計画によるものであるかのように説明している。
(12) 例えば文献 16、また文献 22, p.70。
(13) 大モスクの正式名称はウマイヤ・モスクであり、ヘレニズム時代のサン＝ヘレン教会が 715 年に転用されたものである。ミナレットは 1190 年代に改築されたシリアで唯一のセルジューク朝起源の建造物であったがシリア内戦で 2013 年 4 月に倒壊した。
(14) ハーンは、一階が厩舎と卸売り場、二階以上を商人の宿とする中庭式施設である。
(15) スークの後背地まで軽トラックがアクセスすることで、それまでのラクダやロバによる輸送からの切り替えが可能となるとされた。
(16) 寝殿造りを範とした「正方形の家」(1953)、アルジェの中庭式住宅を再現した「トタンバラック移転用の住宅」(1955)、カンボジアの高床式「実験住宅」(1962)、そしてダマスカスのヘレニズム型グリッド街路に基づく「古代都市の再構築」(1968)等が「進化型計画論」の系譜と位置づけられる。詳細は文献 13 を参照。
(17) 西洋人が居住する新市街地との間に立地し、西洋人とシリア人を取り持っていたユダヤ人の居住地で、インフラ整備等で後れていたとされる。後述のようにシナゴーグが 2 件存在したが、1949 年にはムスリム暴徒による略奪を受けていた。
(18) 文献 9。Gaube&Wirth の地図は本計画から 9 年が経過した頃に発表されたが、それまでに実現された道路は存在しない。確認できるのは、ファラジュ門地区東側で始まっているスクラップと、道路を隔てた高層ブロック群（建設中）のみである。
(19) 1260 年まで（マムルーク朝前）、1260-1400 年（マムルーク朝初期）、1401-1516 年（マムルーク朝後期）、1517-1770 年（オスマン朝初期）、1771-1918 年（オスマン朝後期）、1918 年以後（オスマン朝後）の 6 王朝期に分類されている。
(20) 2 つのシナゴーグはいずれも文献 9 の地図で施設番号を付されていない。
(21) 文献 11, pp.64-67。
(22) アレッポの歴史的建造物を体系的に扱った文献 11 では扱いがない。また、当該箇所の再開発は今日まで未実現である。

【文献】

1)Banshoya, Gyoji. "Maison de plan carré à Tokio." *L'Architecture d'Aujourd'hui* 49(1953) : 2-3.
2)Banshoya, Gyoji and David, Jean-Claude. "Projet d'aménagement de la vieille ville d'Alep." *L'Architecture d'Aujourd'hui*, 169(1973) : 84-85.
3)Banshoya, Gyoji and Roral Henrick. *Aleppo Master Plan*, Syrian Arab Republic, 1975.
4)Bianca, A. Stefano et al. *The Conservation of the Old City of Aleppo*, Syrian Arab Republic, UNESCO, 1980.
5)Bianca, A. Stefano. *Urban form in the Arab world : past and present*. London: Thames & Hudson, 2000.
6)Burns, Ross. *Aleppo :a history*. London : Routledge, 2017.
7)Candilis, Georges. "L'habitation Individuelle Minimum." *L'Architecture d'Aujourd'hui* 49(1953) : 0-1.
8)David, Jean-Claude. "Politique et urbanisme à Alep: le projet de Bab al-Faradj", In *Etat, ville et mouvements sociaux au Maghreb et au Moyen-Orient*, 317-24. C.N.R.S.-E.S.R.C., Paris, 1986.
9)Gaube, Heinz und Wirth, Eugen. *Aleppo. Karten : historische und geographische Beitraege zur baulichen Gestaltung, zur sozialen Organisation und zur wirtschaftlichen Dynamik einer vorderasiatischen Fernhandelsmetropole*. Wiesbaden : L. Reichert, 1984.
10)Gutton, André. *Programme et rapport justificatif de l'aménagement d'Alep*. Alep : République Syrienne, 1954.
11)Hadjar, Abdallah. Madeleine Trokey (tr.). *Monuments Historiques d'Alep*. Alep : A.T.C.S., 2005.
12)Mansel, Philip. *Aleppo The rise and fall of Syria's Great Merchant City*. London ; I.B.Tauris, 2016.
13)Matsubara, Kosuke. Gyoji Banshoya (1930–1998): a Japanese planner devoted to historic cities in the Middle East and North Africa, Planning Perspectives, 31-3(2016): 391-423.
14)Qudsi, Adli. "Aleppo: a struggle for conservation", *Architecture in Development* 12(1984) : 20-23.
15)Sherban, Cantacuzino and Brown, Kenneth. "Aleppo: Bab-el-Faraj." *Architecture in Development* 12(1984) : 24-31.
16)陣内秀信・新井勇治（編著）『イスラーム世界の都市空間』法政大学出版局, 2002.
17)パトリック シール(著)・佐藤紀久夫(訳)『アサドー中東の謀略戦』時事通信社, 1993.
18)番匠谷堯二「海外ネットワーク　中近東」」新建築, 1971 年 10 月号，125.
19 番匠谷堯二「シリアにおける都市の形成」」建築雑誌, 1977 年 6 月号，29-32.
20)松井道昭『フランス第二帝政下のパリ都市改造』日本経済評論社, 1997.
21)松原康介「歴史都市アレッポにおけるオスマニザシオンの系譜　フランス都市計画の海外展開の一事例」都市計画論文集, 44-3(2009), 889-94.
22)三浦徹『イスラームの都市世界』山川出版社, 1997.